2024.03.14(木)　フロアバレーボールなどで交流
～盛岡視覚支援学校と杜陵高の生徒たち【盛岡タイムス】

フロアバレーボールなどで交流

フロアバレーボールなどを通して杜陵高と盛岡視覚支援学校の生徒が交流した（中坪久人さん提供）

盛岡視覚支援学校と杜陵高の生徒たち
スマホでの撮影のコツも学ぶ

杜陵高本校（三田正巳校長、定時制95人、通信制169人）と盛岡視覚支援学校（近藤健一校長、児童生徒23人）の交流会が2月22日、盛岡市北山の同校で開かれた。杜陵高本校で実施している「カルチャー講座」や、昨年の全国大会で4位となった盛岡視覚支援学校フロアバレーボール部（佐藤雅也部長、部員5人）の指導のもと行ったフロアバレーボールを通して、親睦を深めた。

杜陵高は2023年度に、県の防災教育スクールに選ばれた。その一環として、同校の生徒が近隣の盛岡視覚支援学校の避難訓練の際に訪問し、災害時に視覚に障害のある生徒たちにどのような支援ができるかを学ぶなど、協力関係を築いてきた。

カルチャー講座では、杜陵高OBの中坪久人さん（ギャルドブレイン代表）が講師となり、スマホで動画や写真を撮る際のポイントなどを伝えた。同校定時制の生徒7人と盛岡視覚支援学校高等部の生徒3人が参加。被写体になったり相談し合ったりしながら、撮影時のこつをつかんだ。

盛岡視覚支援学校の阿部玲菜さん（3年）は「この学校は視覚支援学校で、人数がもともと少ない環境にいる。学校の近くにある杜陵高校の生徒と交流することができて良かった」と喜び、「初めての人と話すのは気まずかったが、隣の席になった杜陵高校の人が気軽に話しかけてくれた。スマホにもいろいろな撮り方があることを知れたので、今後にも生かしていきたい」と声を弾ませた。

フロアバレーボールでは、同校中等部の生徒2人も加わり、練習や試合を行った。同競技は、床上30㌢の高さに張られたネットを挟み、転がってくるボールを3回以内に返し、相手選手の隙間を縫ってコートを通過させるとポイントになる。

杜陵高の山田ありささん（3年）は「視覚支援学校の皆さんは本気を出さず、気を使ってくれていたと思うが、威力のあるボールが飛んできて、すごかった。とても楽しかった」と笑みを浮かべ、「視覚や聴覚などに障害がある支援学校の先生になることが夢なので、こういった場で一緒に活動することができて、将来の夢に一歩近づけた気がした」と思いを語った。

両校の交流会は、内容を変えて今後も実施していく予定。

※　盛岡タイムス 2024年3月14日(木)付　この記事は盛岡タイムス社の許諾を得て転載しています。